

謝 辞

本書は、創価学会版「法華経写本シリーズ 8」としての出版である。この写本シリーズは、第1期分として1997年から2005年の間に、シリーズ1から6まで合計8点の出版を行った(シリーズ2が3点セットのため、シリーズのナンバーと総点数が合わなくなっている)。第2期の法華経出版5カ年計画は2006年度に始まったが、本書はその2冊目になる。内容は、パリ・アジア協会に所蔵される梵文法華経写本のローマ字テキストが主要なものである。筆者は序において、このテキストの解説を試みた。それも併せて読んでいただければ幸いである。

本書の出版は、世界の平和・繁栄と全人類の幸福を実現するために活躍される創価学会国際ナショナル(SGI)会長・池田大作先生と、先生を人生の師と敬愛し、平和と人道の連帯を広げておられる、日本の創価学会の同志の皆様、ならびに世界190カ国・地域のSGIメンバーの皆様のご理解とご協力によってはじめて実現したものである。ここに、心からの感謝の念を表明するものである。

SGI会長は、1970年代から世界の知性との対談を開始した。リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー(対談集『文明・西と東』1972年上梓)、アーノルド・J・トインビー(対談集『二十一世紀への対話』1975年上梓)、松下幸之助(対談集『人生問答』1975年上梓)、アンドレ・マルロー(対談集『人間革命と人間の条件』1976年上梓)、ルネ・ユイグ(対談集『闇は暁を求めて』1980年上梓)は、70年代の代表的な対談者である。それ以後、現在までの対談者は7000人に達する。

SGI会長は、世界の一流の専門家・知識人と自在に対話を展開する。読者は、平易な語彙と明快な表現によって、いつしか、広範な専門的知識を身につけ、一つのものごとを多角的に考察する技術を修得し、生きる智慧と勇気と希望を与える対話に聞き入るのである。それらは、釈尊、ソクラテス、キリストの対話を思い起こさせる。

話題は多岐にわたる。ルネ・ユイグは、フランスが仏教探求の端緒を開いたことに関連して対談集で次のように述べている。

「この遠い国ぐんについての真実の認識が打ち立てられることが必要でしたが、その端緒を開いたのが、インド思想の研究、とくに仏教についての探求でした。十九世紀のことで、

謝辞

私の属しているコレージュ・ド・フランスがその草分けの役割を演じたのです。文化の新しい分野を開拓するという固有の使命を果たすために、研究と教育の講座を設けるといふその規則に忠実に従い、コレージュ・ド・フランスは、この学問のために一講座を設け、一八三二年からそれをビュルヌフ(フランスの東洋学者)にゆだねたのです。』¹

序に述べたように、法華経のサンスクリット語写本からフランス語訳が誕生したのである。こうした経緯に思いをめぐらすと、筆者はSGI会長とともに、コレージュ・ド・フランスとビュルヌフにも深い感謝の念を捧げなければならない。

末尾ながら、本シリーズのために尽力いただいた原田稔創価学会会長、秋谷栄之助創価学会前会長、ならびに関係部局の皆様に厚くお礼を申し上げたい。また、東洋哲学研究所の森田康夫前代表理事、川田洋一代表理事(所長兼任)、井戸川行人事務局長ならびに職員の皆様には種々ご助力をいただき、感謝にたえない。創価学会国際室の水船教義氏(東洋哲学研究所委嘱研究員兼任)には、本書の編集・渉外・翻訳など、多くの分野で協力をいただいた。心より感謝申し上げたい。英文の監修を担当していただいたアンソニー・ジョージ氏と、フランス語訳を担当していただいたミシュリーヌ・ペサン氏、及びグラジエラ・ロビノ氏に感謝の念を表したい。最後に、この写本の鮮明なコピーを提供していただいた、創価大学国際仏教学高等研究所の辛嶋静志教授、工藤順之准教授に深くお礼を申し上げる次第である。

2007年12月22日

東洋哲学研究所委嘱研究員

小槻 晴明

注

- 1.『池田大作全集』第5巻，聖教新聞社，東京，1989年，p. 459